

令和6年度 事業報告書



一般財団法人札幌市環境事業公社

目 次

I	事業総括	1
II	事業報告	
1	調査啓発事業	2
2	不燃用プリペイド袋リサイクル事業	3
3	資源化事業	
3-1	剪定枝等処理事業	4
3-2	びん・缶・ペットボトル選別事業	5
3-3	施設管理受託事業	
(1)	ごみ資源化工場ほか施設管理事業	7
(2)	中沼プラスチック選別センター施設管理事業	10
(3)	中沼雑がみ選別センター施設管理事業	11
(4)	札幌市リサイクル団地管理事業	12
3-4	大型ごみ収集センター管理運営事業	13
4	事業系ごみ収集運搬事業	14
5	重点項目の実施状況	16
	事業報告の附属明細書	17

I 事業総括

当公社は、廃棄物の適正処理及び再資源化を推進し、都市環境の確保と資源循環型社会の推進に寄与するため、札幌市と連携し、調査啓発事業、資源化事業、事業系ごみ収集運搬事業等の事業を実施している。

令和 6 年度の国内経済は、景気が緩やかに改善していく中、事業系ごみ収集量も徐々に回復しながらほぼコロナ前の水準まで戻ってきており、収支状況においても良好な決算となった。

各事業の実施状況については、調査啓発事業では、令和 4 年度から実施している「事業系紙おむつのリサイクルに関する調査」を令和 6 年度で終了し、「びん・缶・ペットボトル選別事業に関する調査」を新たに開始した。

「不燃用プリペイド袋リサイクル事業」については、円滑な処理に努め、計画どおりの処理実績となった。

資源化事業については、「びん・缶・ペットボトル選別事業」では、処理に支障が生じないように適切な管理運営に努めた。また、施設の計画的な保全整備として、駒岡資源選別センターの空調設備のチラーユニットの更新などを実施した。

施設管理（総括管理）業務を受託している「ごみ資源化工場」「中沼プラスチック選別センター」「中沼雑がみ選別センター」等においても、安定した運営管理を行うことができた。

なお、「大型ごみ収集センター管理運営事業」については、本年度を以て終了した。

基幹事業である「事業系ごみ収集運搬事業」における収集量は、体積ベースで計画比 3.0%増（前年度実績比 1.8%増）の 1,038 千 m^3 、重量ベースで計画比 0.5%増（前年度実績比 0.9%増）の 157 千 t となった。

また、下記の重点項目についても、着実に各種取組を進めることができた。

総じて、「持続可能な事業運営」に努め、事業全般を通じて安定した収集運搬・処理体制の確保により、適切に事業運営を行うことができた。

■ 重点項目

- 事業系ごみ収集運搬事業の効率化と顧客サービスの向上
 - ごみ量の変化に対応した効率的な収集体制の確立と、関係各所と連携した取組やインターネットの活用などによる顧客サービスの向上
- 施設の計画的な整備・保全管理
 - 「中沼・駒岡資源選別センター」の老朽化対策
- リサイクル等に関する調査研究
 - 将来の事業につながる新たなリサイクル技術等の調査研究
- 顧客や市民への積極的な情報発信
 - ごみの減量・リサイクルの推進や公社の取組に関する積極的な情報発信
- 事務・事業の見直し及び経費の節減
 - 事業環境の変化や社会のニーズに対応した事務・事業の再編・再構築や、効果的・効率的な支出の徹底

Ⅱ 事業報告

1 調査啓発事業（決算額 58,551,256 円）

■事業概要

事業経緯	公社設立当初の平成2年から実施している自主事業。平成24年度からは公益目的支出計画の実施事業としている。
実施内容	・調査研究事業～ごみの資源化やリサイクルに関する調査研究を実施。 ・普及啓発活動～資源循環型社会の実現に向けて、ごみの減量やリサイクルの重要性について広く市民や顧客に普及啓発するため、広報活動による情報発信や環境関連のイベントへの出展や協賛を行っている。
目的・効果	リサイクルに関する調査研究、リサイクルの普及啓発

■令和6年度事業実績

(1) 調査研究事業

ア 事業系紙おむつのリサイクルに関する調査

高齢化社会に伴う介護需要の増加により、事業系紙おむつの排出量の増加が見込まれる。札幌市における現状を把握するため、令和4年度は排出状況等についてアンケート等を実施し、令和5年度はリサイクル施設の聞き取りと分別収集における問題点等の調査を実施した。

令和6年度はリサイクル施設の整備に係る試算、収集方法の検討や収集運搬に係る経費の試算をするなどし、これまでの調査結果をまとめて終了とした。

イ びん・缶・ペットボトル選別事業に関する調査

びん・缶・ペットボトル選別事業においては、ペットボトルの組成割合増加などの様々な要因により選別処理量の減少や資源物の品質低下などの問題が発生している。

札幌市のごみ出しルールではペットボトル等は潰さずに出すことになっているが、昨今の容器の大型化や軽量化が進む中で、仮にペットボトルや缶類を潰して出すことになった場合、資源選別センターでどのような影響があるかの調査を実施した。

(2) 普及啓発活動

ア 広報活動

- (ア) 当公社の事業内容及び各年度の事業実績等をまとめた「事業概要」を250部発行し、関係先に配布した。
- (イ) びん・缶・ペットボトルリサイクルの普及啓発のため、札幌市内小学校4年生向けの「キッズパンフレット」を16,000部発行し、市内全校に配布した。
- (ウ) 市内の小学校4年生から、びん・缶・ペットボトルのリサイクルに関する啓発ポスターを募集し、最優秀賞となったものを当公社のごみ収集車の車体側面に掲示して「走る掲示板」とする啓発活動を行った。
- (エ) ホームページ等を通じて、公社事業の最新情報を発信した。

イ イベントへの参加・協賛及び広告掲載等によるPR

- (ア) 例年参加している「環境広場さっぽろ」に出展し、ごみ減量やリサイクル等の普及啓発を実施した。
- (イ) こどものまち「ミニさっぽろ2024」その他各種イベント等への協賛のほか、雑誌等の各種広告媒体を活用した広報活動・普及啓発を行った。

2 不燃用プリペイド袋リサイクル事業 (決算額 73,089,209 円)

■事業概要

事業経緯	平成 21 年 4 月から実施している公社の自主事業。平成 24 年度からは公益目的支出計画の実施事業としている。
実施内容	市内少量排出事業所から不燃用プリペイド袋で排出される不燃ごみを対象に、びん・缶・ペットボトル、金属類等の資源物を選別してリサイクルしている。
実施場所 (受入施設)	篠路資源化センターのチップ工場内に設置した積替保管施設 ※チップ工場 昭和 63 年 3 月完成の市有施設 ※選別に係わるものは公社が設置
目的・効果	資源の有効利用、埋立地の延命化

【選別品目と活用方法】

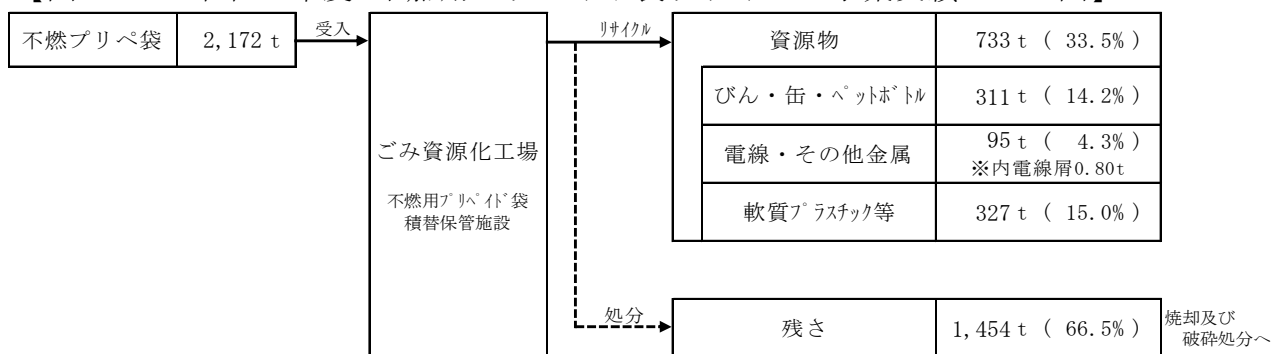
選別品目	選別後の活用方法等
びん・缶・ペットボトル	一括選別して中沼資源選別センターに搬入し、品目ごとに再選別
電線・その他金属	金属再生事業者へ売却
軟質プラスチック等	ごみ資源化工場の固形燃料原料として活用

■令和 6 年度 事業実績

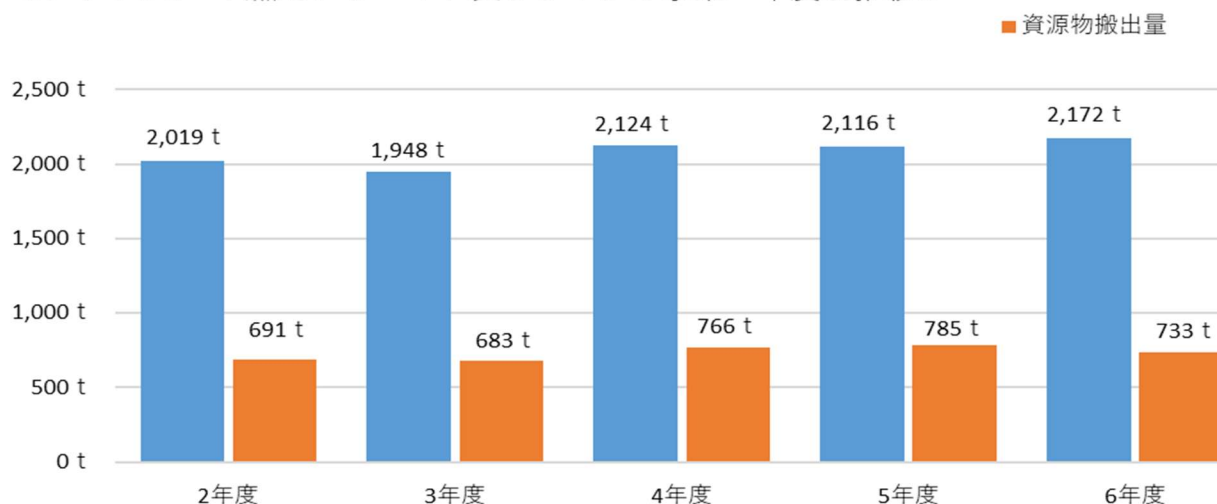
項 目	計 画	6 年度実績	前年度実績	摘 要
不燃用プリペイド袋受入量	2,200 t	2,172 t	2,116 t	計画比 1.3% 減、前年度実績比 2.6% 増
資 源 物	797 t	733 t	785 t	計画比 8.0% 減、前年度実績比 6.6% 減
リサイクル率	35.3%	33.5%	36.2%	

※リサイクル率＝ 資源物量 / (資源物量＋残さ量)

【図2-1 令和 6 年度 不燃用プリペイド袋リサイクル事業実績フロー図】



＜グラフ2-2 不燃用プリペイド袋リサイクル事業 年度別推移＞



3 資源化事業 (決算額 1,218,880,019 円)

3-1 剪定枝等処理事業 (決算額 37,443,243 円)

■事業概要

事業経緯	平成20年9月の旧札幌リサイクル公社廃止に伴う継承事業で、平成20年10月から当公社の自主事業として実施している。
実施内容	街路樹、公園、建設工事等から発生した剪定枝、伐採木等を受け入れ、破碎処理等して45mm以下のチップに加工し、堆肥の原料やボイラー熱源、畜舎の敷きわら等として需要先に供給している。
実施場所 (受入施設)	篠路資源化センターのチップ工場 昭和63年3月完成の市有施設 ※行政財産使用許可を得て、公社が借り受け 横型回転破碎機(15t/h)×1基、振動篩等
目的・効果	資源の有効利用、清掃工場の負荷軽減、埋立地の延命化

【受入対象物】 街路樹や公園、建設工事等から発生した剪定枝、伐採木、抜根

【受入条件】 幹は直径80cm以内、長さ2m以内

根は最大寸法(直径または長さ)1m以内で、土を落としたもの

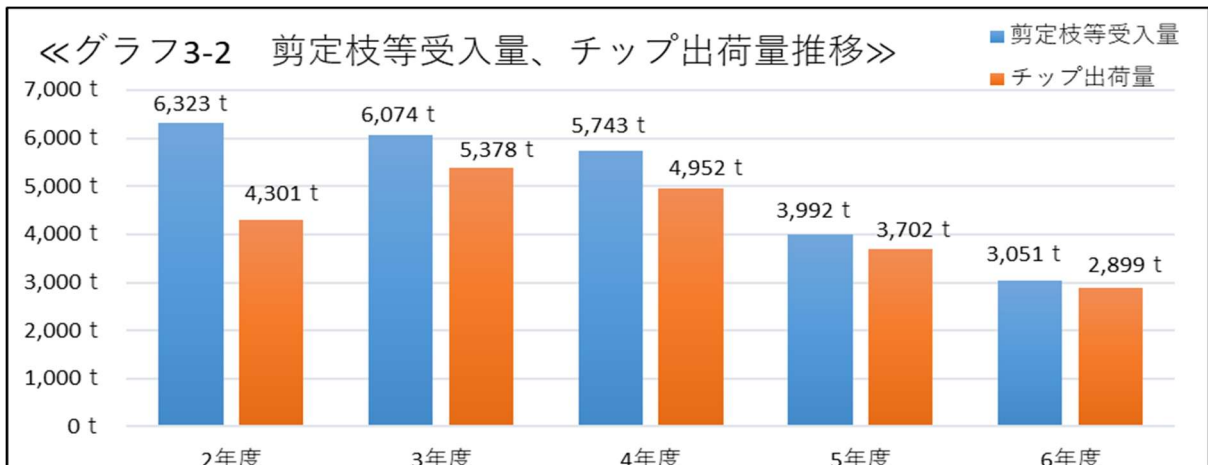
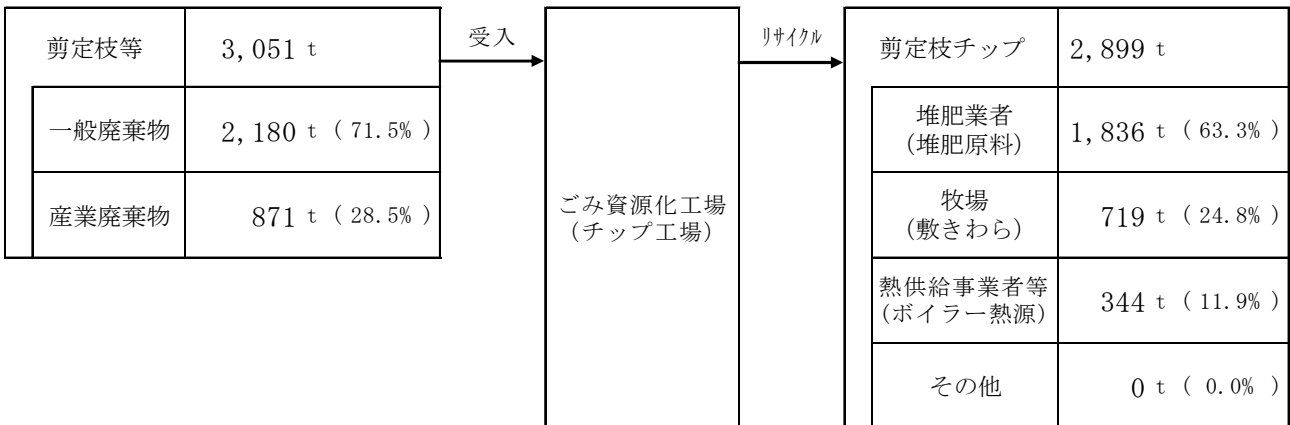
【チップ仕様】 45mm以下(用途に応じ原料の水分量を考慮、大きさ等を調整)

【供給先】 堆肥生産事業者(堆肥原料)、熱供給事業者(ボイラー熱源)、牧場(敷きわら)

■令和6年度 事業実績

項目	計画	6年度実績	前年度実績	摘要
剪定枝等受入量	3,200 t	3,051 t	3,992 t	計画比 4.7% 減、前年度実績比 23.6% 減
チップ出荷量	3,200 t	2,899 t	3,702 t	計画比 9.4% 減、前年度実績比 21.7% 減

【図3-1 令和6年度 剪定枝等処理事業実績フロー図】



3-2 びん・缶・ペットボトル選別事業 (決算額 976,346,581 円)

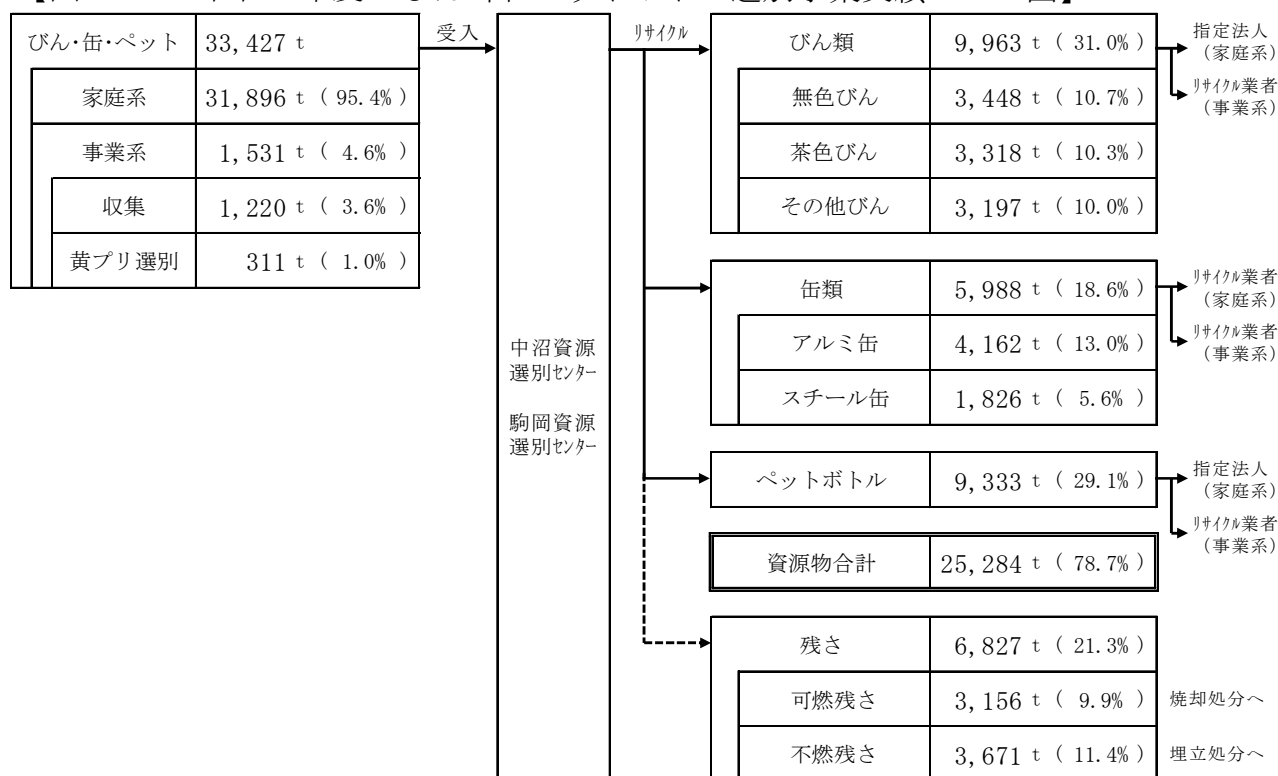
■事業概要

事業経緯	札幌市が容器包装リサイクル法に基づくびん・缶・ペットボトルの資源物収集を開始するにあたり、公社が選別施設を建設して市から選別業務の委託を受ける旨の協定を締結、施設の完成後、平成 10 年 10 月から本格実施している札幌市からの受託事業
実施内容	・札幌市が収集する家庭から排出されるびん・缶・ペットボトルを受け入れ、国及び(公財)日本容器包装リサイクル協会の分別基準に従い、選別・圧縮・梱包等の処理を行い、リサイクル業者に引き渡す等している。 ・公社が収集する事業系のびん・缶・ペットボトルについても、公社の自主事業として同様の処理を行っている。 ・なお、駒岡資源選別センターの手選別業務については、札幌市との当初の協定に基づき、障がい者雇用促進の一環として軽度知的障がい者の福祉団体に委託している。 ・令和 3 年 10 月からは、札幌市が「びん・缶・ペットボトル」の日に別袋収集する乾電池の選別・梱包・保管する作業を行っている。
実施場所 (受入施設)	中沼資源選別センター (平成 10 年 9 月竣工) 処理能力 36.7 t / 日 (8h) × 3 系列 = 110 t / 日 (8h) 駒岡資源選別センター (平成 10 年 9 月竣工) 処理能力 38.5 t / 日 (8h) × 2 系列 = 77 t / 日 (8h)
目的・効果	資源の有効利用、埋立地の延命化

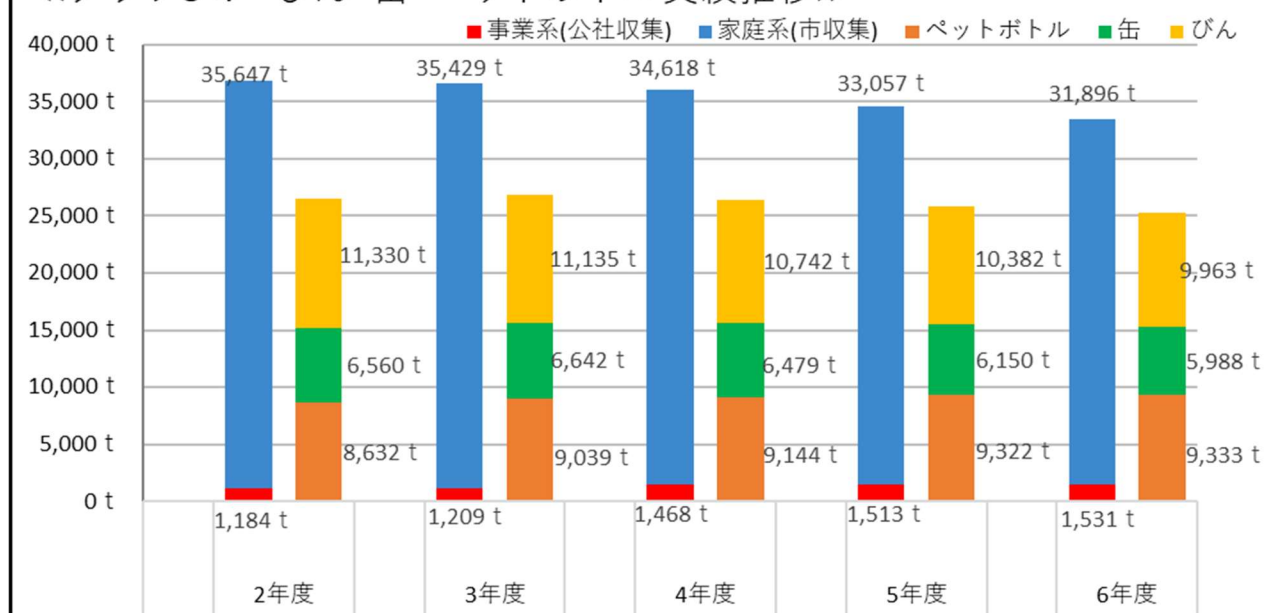
■令和 6 年度 事業実績

項 目		計 画		6年度実績		前年度実績		摘 要	
受 入 量	中沼資源選別センター	22,736 t	家庭系 21,647 t 事業系 1,089 t	22,132 t	家庭系 21,108 t 事業系 1,024 t	23,111 t	家庭系 22,043 t 事業系 1,068 t		
	駒岡資源選別センター	11,704 t	家庭系 11,253 t 事業系 451 t	11,295 t	家庭系 10,788 t 事業系 507 t	11,459 t	家庭系 11,014 t 事業系 445 t		
	合 計	34,440 t	家庭系 32,900 t 事業系 1,540 t	33,427 t	家庭系 31,896 t 事業系 1,531 t	34,570 t	家庭系 33,057 t 事業系 1,513 t		
資 源 物 搬 出 量	中沼資源選別センター	16,811 t		16,657 t		17,098 t			
	駒岡資源選別センター	8,863 t		8,627 t		8,756 t			
	合 計	25,674 t		25,284 t		25,854 t			
			びん類 10,359 t		びん類 9,963 t		びん類 10,382 t	計画比 3.8% 減、 前年度実績比 4.0% 減	
			缶類 6,135 t		缶類 5,988 t		缶類 6,150 t	計画比 2.4% 減、 前年度実績比 2.6% 減	
			ペット 9,180 t		ペット 9,333 t		ペット 9,322 t	計画比 1.7% 増、 前年度実績比 0.1% 増	

【図3-3 令和6年度 びん・缶・ペットボトル選別事業実績フロー図】



《グラフ3-4 びん・缶・ペットボトル実績推移》



■令和6年度 事業実績(乾電池)

項 目	計画	6年度実績	前年度実績	摘 要
中沼資源選別センター	234 t	257 t	246 t	計画比 9.8% 増、前年度実績比 4.5% 増
駒岡資源選別センター	121 t	127 t	120 t	計画比 5.0% 増、前年度実績比 5.8% 増
合 計	355 t	384 t	366 t	計画比 8.2% 増、前年度実績比 4.9% 増

3-3 施設管理受託事業（決算額 168,646,447 円）

■事業概要

事業経緯	札幌市から委託を受け、市有リサイクル施設の運営管理を下記の4つの事業区分で当公社が実施している。
実施内容	札幌市からそれぞれ専門業者に別途発注されている各施設のプラント運転、受入、選別、搬出等業務について、市の計画に基づき、密な連絡調整のもと、当公社が各作業及び施設運営の総括管理を実施している。 また、これらの施設は新設された分岐棟を除き、いずれも老朽化が進んでいることを踏まえ、札幌市と連携して適切な運営管理に努める。 【事業区分】 (1) ごみ資源化工場ほか施設管理事業 (ごみ資源化工場、篠路破碎工場、分岐棟) (2) 中沼プラスチック選別センター施設管理事業 (3) 中沼雑がみ選別センター施設管理事業 (4) 札幌市リサイクル団地管理事業
目的・効果	市有施設の適正かつ効率的運用による安定したごみ処理の実施

■令和6度 事業実績

(1) ごみ資源化工場ほか施設管理事業（決算額 77,369,298 円）

【管理対象施設】

ア ごみ資源化工場及び貯留サイロ等

- ・ごみ資源化工場（平成2年3月完成）、チップ工場（昭和63年3月完成）、貯留サイロ（昭和61年6月完成）
- ・事業系の紙くず及び木くずを受け入れて、ごみ資源化工場で固形燃料（RDF）を生産、貯留サイロで保管する。固形燃料は熱供給事業者へ供給している。

イ 篠路破碎工場等

- ・篠路破碎工場及び管理棟（昭和55年12月完成）
- ・篠路破碎工場で、自己搬入ごみ、大型ごみ等を受入れ、破碎処理している。

ウ 分岐棟（インフラ供給施設）

- ・付帯施設※に代わる受変電設備等のインフラ供給施設（令和3年8月完成）
- ※付帯施設（旧清掃工場）は令和7年3月 解体工事完了
- ・受変電設備、蒸気暖房設備、給排水設備、消火設備等を備えており敷地内各施設への供給等を行っている。

【事業内容】

- ・公社の実施内容は、ごみ資源化工場、篠路破碎工場及び分岐棟等の円滑な運営のため、各施設の稼働・保守を目的として札幌市が別途発注する各種業務・修繕等の調整・確認等を行うとともに、施設設備の維持管理を行う。
- ・別途発注業務
 - ① ごみ資源化工場： 運転業務、固形燃料運搬業務、定期整備業務等
 - ② 篠路破碎工場： 設備等運転業務、可燃物等運搬業務、分岐棟等運転業務、計量及び徴収業務、定期整備業務等

【令和6年度事業実績】

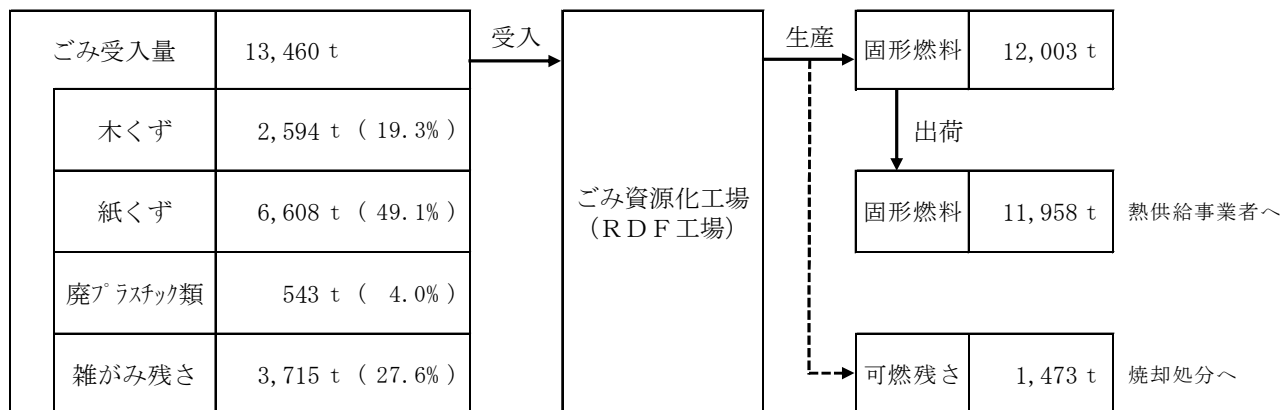
ごみ資源化工場（RDF工場）

項 目	計画	6年度実績	前年度実績	摘 要
ごみ受入量	13,883 t	13,460 t	13,920 t	計画比 3.0% 減、前年度実績比 3.3% 減
固形燃料生産量	11,301 t	12,003 t	12,003 t	計画比 6.2% 増、前年度実績比 0.0%
固形燃料出荷量	12,356 t	11,958 t	12,438 t	計画比 3.2% 減、前年度実績比 3.9% 減

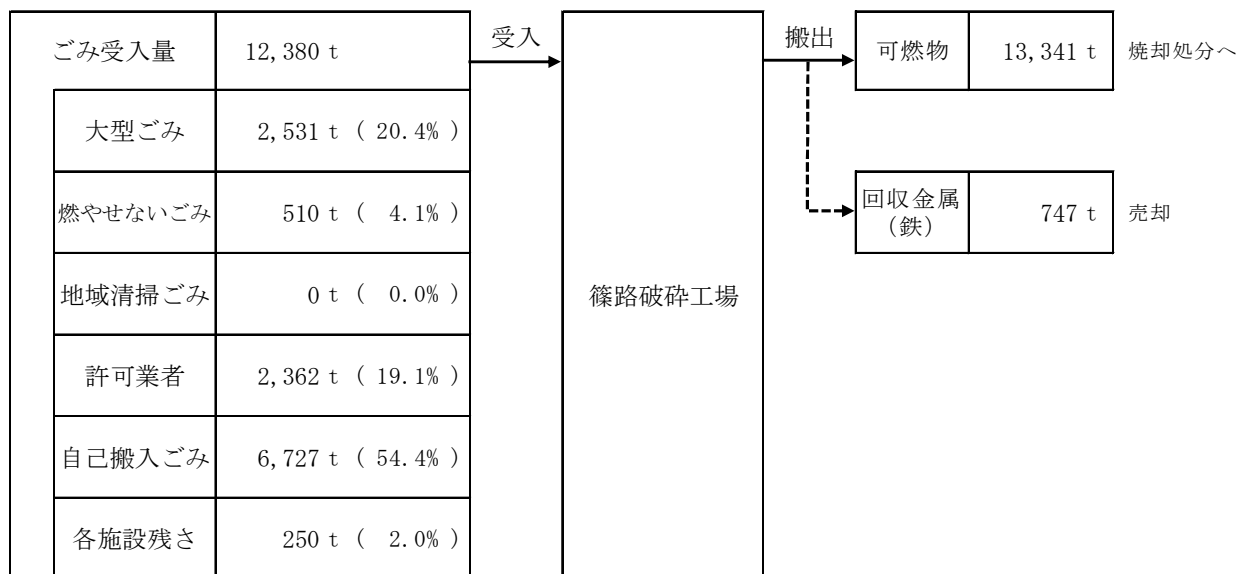
篠路破碎工場

項 目	計画	6年度実績	前年度実績	摘 要
ごみ受入量	12,775 t	12,380 t	10,862 t	計画比 3.1% 減、前年度実績比 14.0% 増

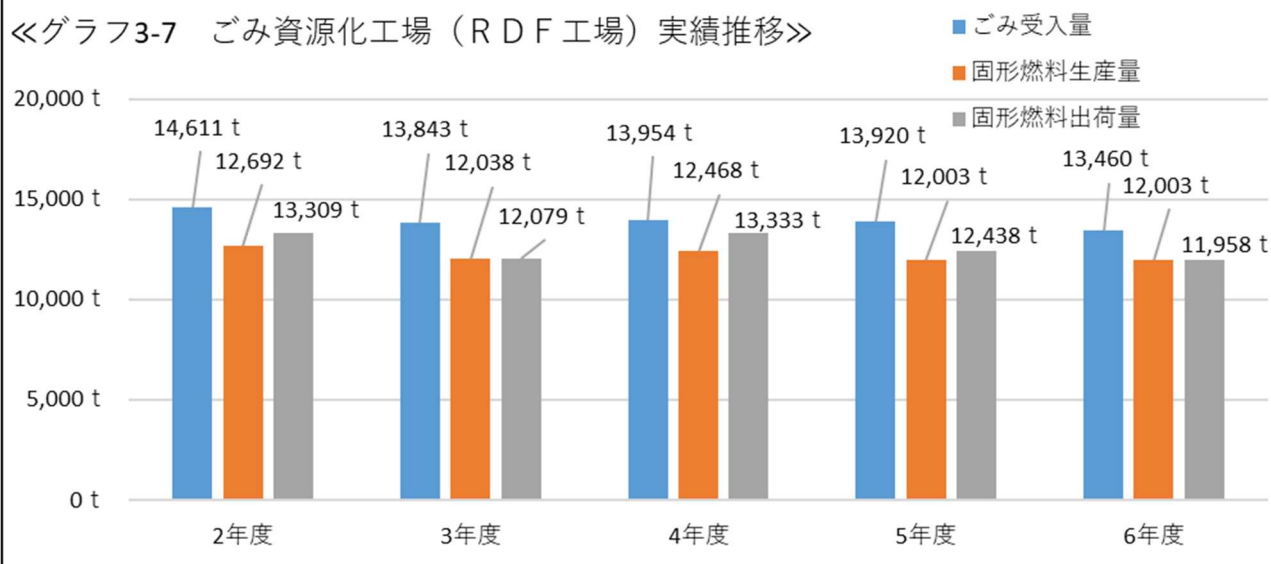
【図3-5 令和6年度 ごみ資源化工場処理実績フロー図】



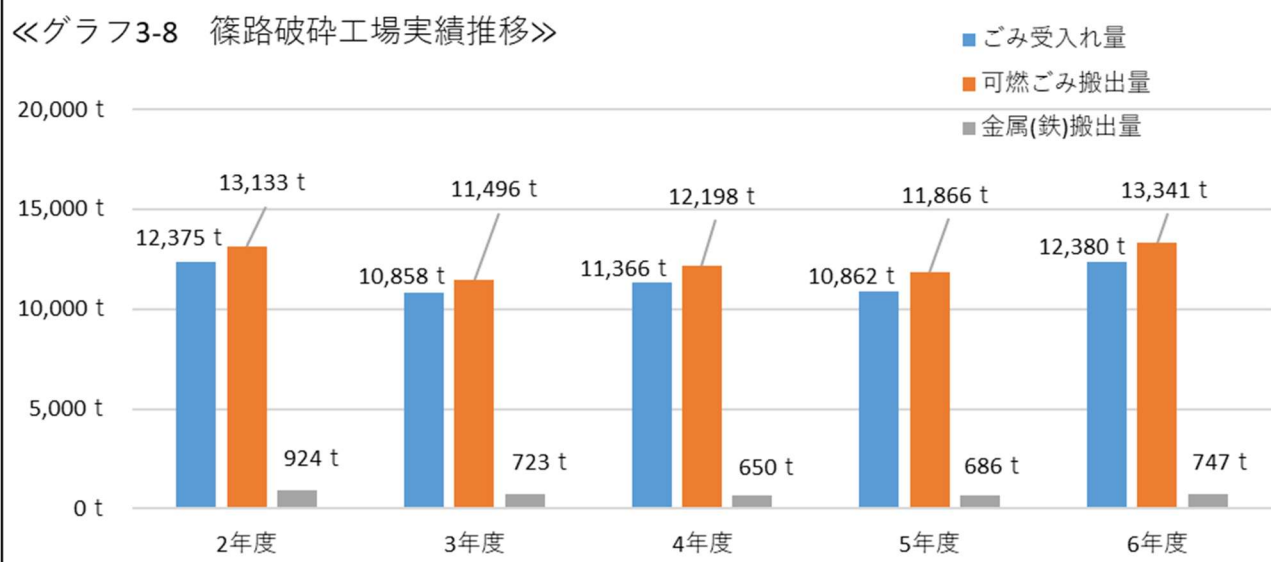
【図3-6 令和6年度 篠路破碎工場処理実績フロー図】



＜＜グラフ3-7 ごみ資源化工場（R D F 工場）実績推移＞＞



＜＜グラフ3-8 篠路破碎工場実績推移＞＞



(2) 中沼プラスチック選別センター施設管理事業（決算額 41,758,694 円）

【管理対象施設】

中沼プラスチック選別センター

- ・平成12年6月完成 処理能力82.6 t/日（3系統の選別ライン、圧縮梱包機等で構成）
- ・市が収集する容器包装プラスチックごみを受け入れ、国及び（公財）日本容器包装リサイクル協会が定める分別基準に従い、選別・圧縮・梱包等の処理を行い、同協会を通じて再商品化事業者へ引き渡す施設
- ・再商品化事業者におけるリサイクル用途は再生プラスチックや高炉還元剤等

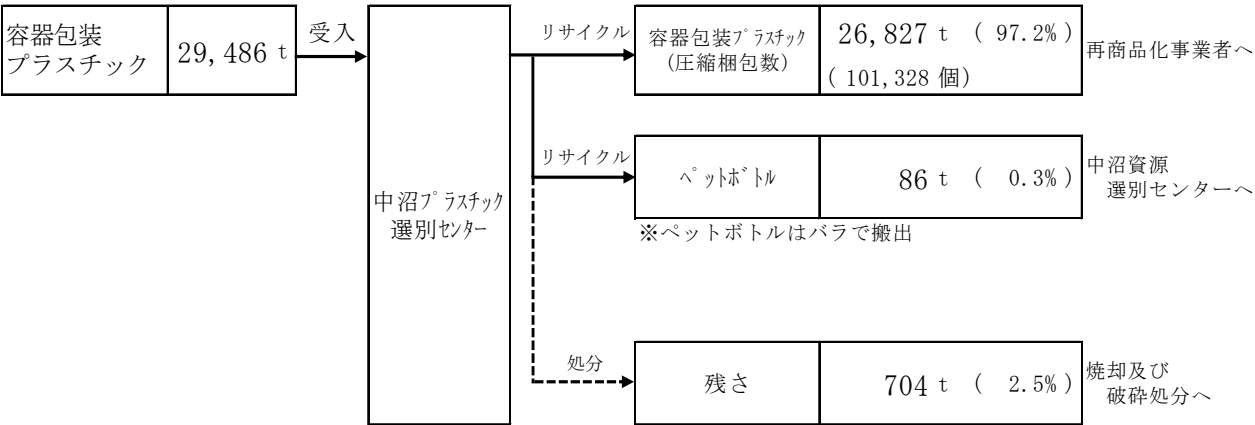
【事業内容】

- ・公社の実施内容は、建物や設備等を適正に維持管理するとともに、札幌市が別途発注する関連業務や関係者等との調整を図り、円滑に資源物の処理を行うなど、施設の安定的な管理、運営を行うもの。
- ・別途発注業務： 運転業務、残さ運搬業務、定期整備業務等

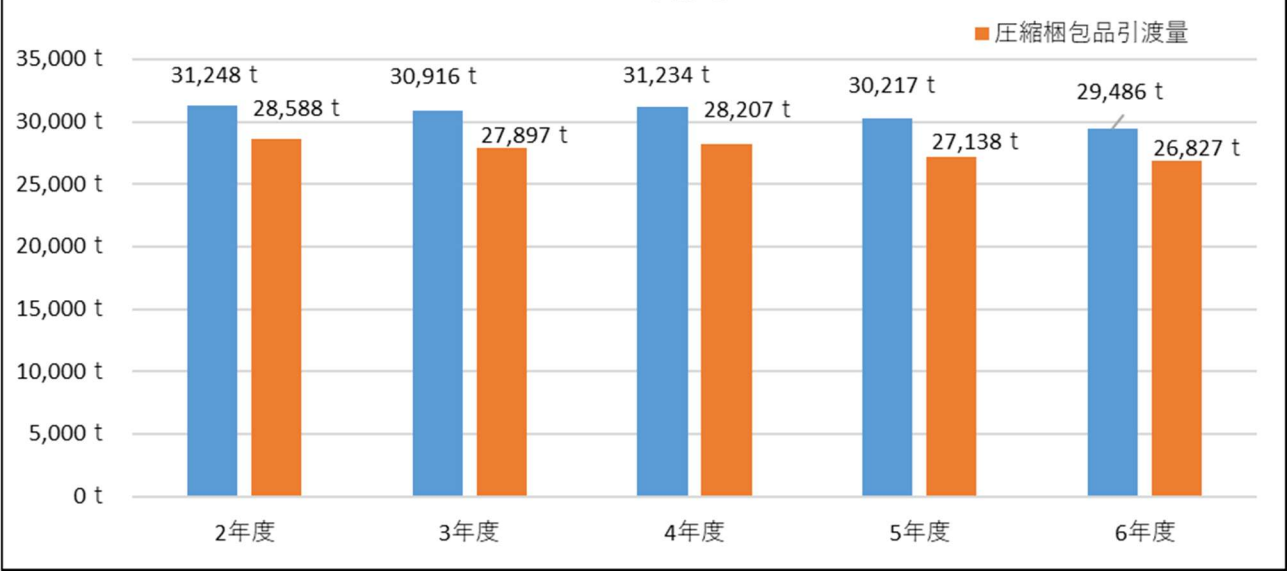
【令和6年度事業実績】

項 目	計画	6年度実績	前年度実績	摘 要
容器包装プラスチック受入量	30,000 t	29,486 t	30,217 t	計画比 1.7% 減、前年度実績比 2.4% 減
圧縮梱包品引渡量	28,405 t	26,827 t	27,138 t	計画比 5.6% 減、前年度実績比 1.1% 減

【図3-9 令和6年度 中沼プラスチック選別センター処理実績フロー図】



＜グラフ3-10 プラスチック選別センター実績推移＞



(3) 中沼雑がみ選別センター施設管理事業（決算額 24,732,582 円）

【管理対象施設】

中沼雑がみ選別センター

- ・平成 21 年 7 月供用開始（平成 9 年 4 月完成の旧建設系廃材リサイクルセンターを改修）
- ・処理能力 85 t/日（2 系統の選別ライン、圧縮梱包機等で構成）
- ・市が収集する雑がみを受け入れ、選別・圧縮・梱包等の処理を行い、市が一般競争入札で売却先とした再資源化事業者に引き渡す施設
- ・再資源化事業者におけるリサイクル用途は再生紙、トイレットペーパーの原料等

【事業内容】

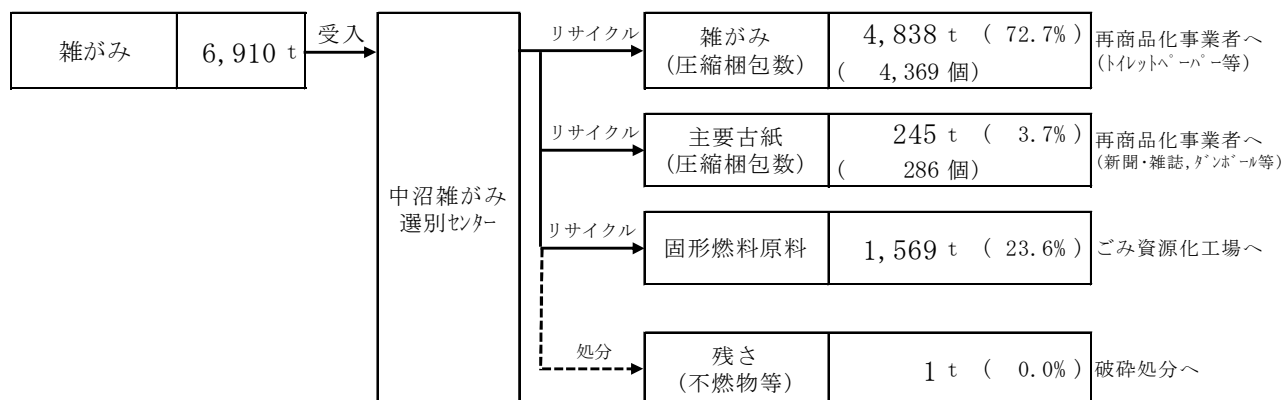
- ・公社の実施内容は、建物や設備等を適正に維持管理するとともに、札幌市が別途発注する関連業務や関係者等との調整を図り、円滑に資源物の処理を行うなど、施設の安定的な管理、運営を行うもの。
- ・別途発注業務： 運転業務、手選別業務、残さ運搬業務、定期整備業務等

※手選別業務については知的障がい者雇用のため福祉団体に委託されている。

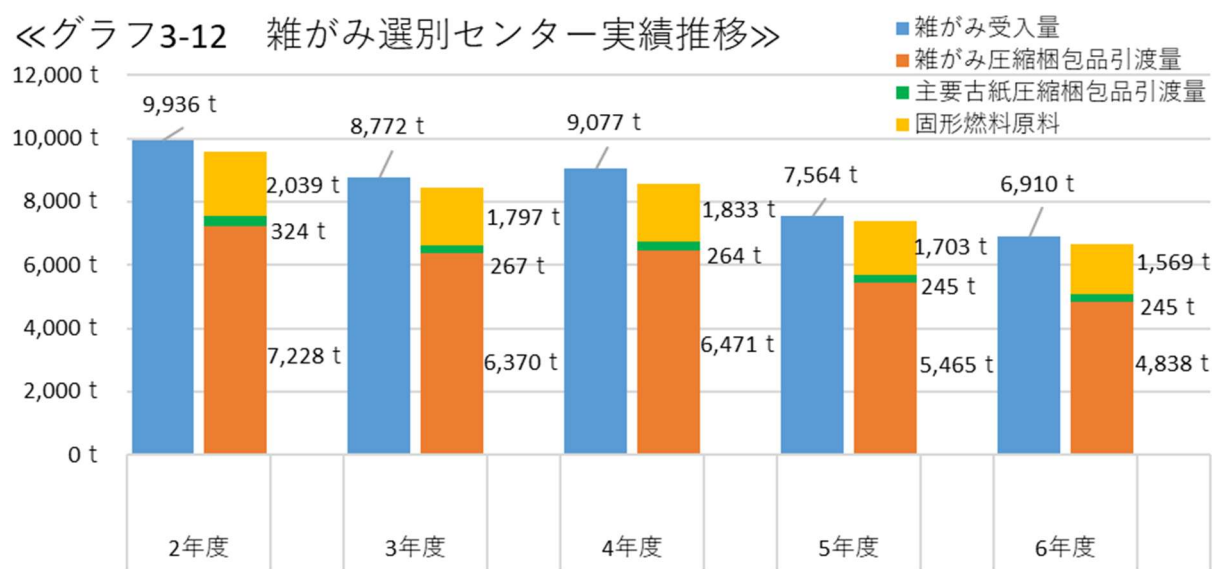
【令和 6 年度事業実績】

項 目	計画	6年度実績	前年度実績	摘 要
雑 が み 受 入 量	8,414 t	6,910 t	7,564 t	計画比 17.9% 減、前年度実績比 8.6% 減
雑がみ圧縮梱包品引渡量	4,992 t	4,838 t	5,465 t	計画比 3.1% 減、前年度実績比 11.5% 減
主要古紙圧縮梱包品引渡量	214 t	245 t	245 t	計画比 14.5% 増、前年度実績比 0.0%
圧縮梱包品引渡量合計	5,206 t	5,083 t	5,710 t	計画比 2.4% 減、前年度実績比 11.0% 減

【図3-11 令和 6 年度 中沼雑がみ選別センター処理実績フロー図】



≪グラフ3-12 雑がみ選別センター実績推移≫



(4) 札幌市リサイクル団地管理事業 (決算額 24,785,873 円)

【管理対象施設】

札幌市リサイクル団地

- ・札幌市リサイクル団地は、廃棄物の適正処理・リサイクルを総合的に推進するモデル的な廃棄物の処理施設群
- ・平成 6～8 年度に札幌市が基盤造成を実施、平成 7 年度から順次官民のリサイクル施設が立地し、現在は民間 6 社 7 施設、市有 2 施設、公社 1 施設の合計 10 施設が稼働している。

【事業内容】

- ・当該団地管理事業は札幌市から委託を受けて公社が下記の業務を行うもの。
 - ① リサイクル団地の連絡調整・見学対応等業務
 - ② リサイクル資料館、ふれあいホールの維持管理業務
 - ③ 井水供給設備の維持管理業務
 - ④ 団地内の市道及び雨水桝等点検、雨水調整池等整備、市道清掃、除排雪、臭気指数等調査
 - ⑤ リサイクル団地協議会の運営業務（会議は原則月 1 回開催）
 - ⑥ その他の管理業務

【令和 6 年度事業実績】

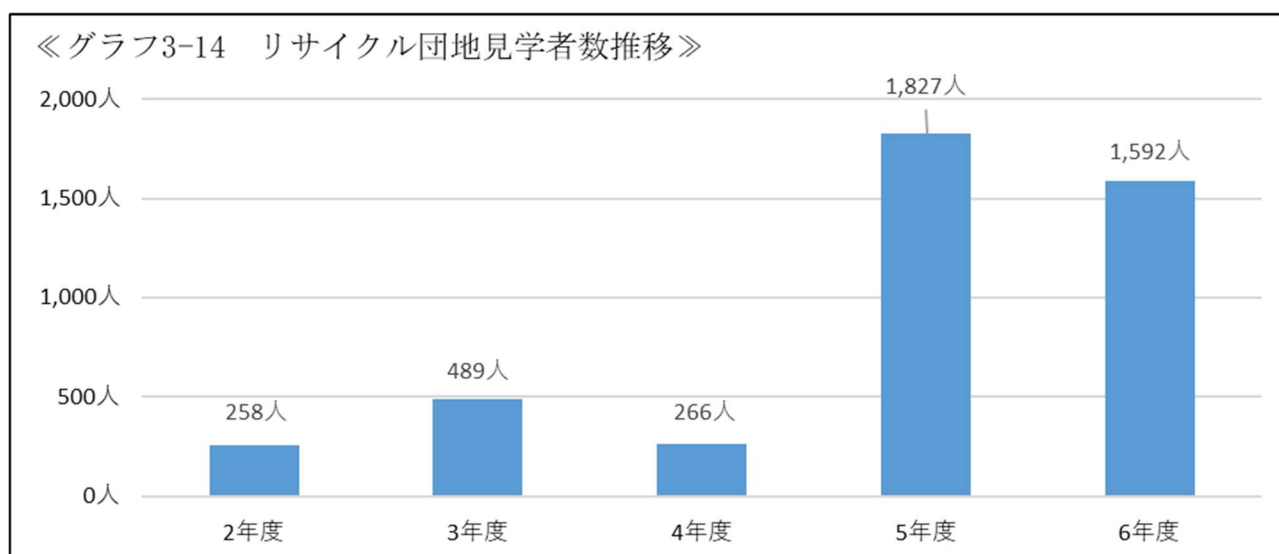
- ・札幌市の所管課との密な連携のもと、いずれの事業も計画に従い適切に行った。
- ・リサイクル団地協議会を通じ、参入企業間の情報共有、各種調整を円滑に行った。

【表 3-13 直近 5 年間の事業実績】

項 目	直近 5 年間の実績					摘 要 (令和 6 年度実績の状況)	
	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度		
見学件数	38 件	71 件	73 件	128 件	139 件	前年度実績比	8.6% 増
見学者数	258 人	489 人	266 人	1,827 人	1,592 人	前年度実績比	12.9% 減

※見学申し込みの受付案内は主に当公社ホームページに掲載

※令和 2～4 年度は新型コロナウイルス感染拡大防止策として札幌市及び公社施設は概ね見学中止、令和 5 年度より再開



3-4 大型ごみ収集センター管理運営事業（決算額 36,443,748 円）

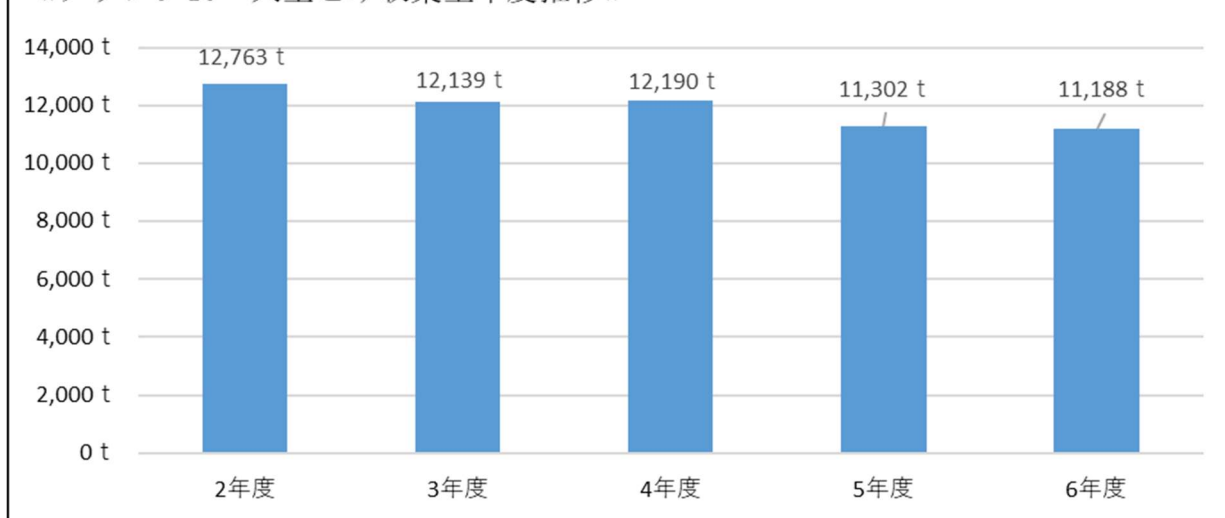
■事業概要

事業経緯	札幌市が平成9年度から開始した大型ごみの戸別収集の申し込み受付等を行う大型ごみ収集センターについては、当初は管理部門を市の直営体制で行っていたが、平成11年度から当公社が受託し、市との密な連携のもと、事業を実施している。
実施内容	- 札幌市の所管課及び別途発注業務との総括調整 別途発注業務：電話受付業務、収集業務 - 収集車両台数の調整、未収集等苦情対応、作業調整等 - 電話受付業務受託者が対応困難な苦情・問合せ等への対応
実施場所	大型ごみ収集センター
目的・効果	札幌市のごみ処理計画に基づく円滑な事業の実施

令和6年度 事業実績

項 目	計画	6年度実績	前年度実績	摘 要
受付・問合せ件数	506,105件	569,984件	530,867件	計画比 12.6% 増、前年度実績比 7.4% 増
収 集 件 数	343,989件	408,309件	359,955件	計画比 18.7% 増、前年度実績比 13.4% 増
収 集 個 数	817,828個	868,284個	843,338個	計画比 6.2% 増、前年度実績比 3.0% 増
収 集 量 (重 量)	11,100 t	11,188 t	11,302 t	計画比 0.8% 増、前年度実績比 1.0% 減

《グラフ3-15 大型ごみ収集量年度推移》



4 事業系ごみ収集運搬事業 (決算額 6,041,050,693 円)

■ 事業概要

事業経緯	平成6年4月から実施している公社の自主事業
実施内容	1 札幌市内の契約事業所が排出する事業系一般廃棄物を収集運搬 ア 焼却する「一般ごみ」と「リサイクルごみ」に分けて分別収集 イ リサイクルごみの種類は、「資源化ごみ（紙くず・木くず・軟質プラスチック）」、「生ごみ」、「不燃用プリペイド袋」、「剪定枝」、「びん・缶・ペットボトル」 2 家庭から排出される引越ごみなどの一時的な多量ごみや自作パソコンの収集運搬
収集先	伝票収集：約 10,000 事業所、プリペイド袋収集：約 25,000 事業所
運搬先	「一般ごみ」→ 白石・駒岡・発寒の各清掃工場 「資源化ごみ」「不燃プリペイド袋」「剪定枝」→ 篠路の資源化工場 「生ごみ」→ 中沼の札幌飼料化リサイクルセンター、定山溪環生舎 「びん・缶・ペットボトル」→ 中沼・駒岡の各資源選別センター
目的・効果	廃棄物の適正処理とリサイクルの推進

■ 令和6年度事業実績

(1) ごみの総収集量

区分	計画	6年度実績	前年度実績	摘 要
体積 ^{m³}	1,007,510	1,037,964	1,019,597	計画比 3.0%増、前年度実績比 1.8%増
重量 t	156,440	157,240	155,771	計画比 0.5%増、前年度実績比 0.9%増

(2) 廃棄ごみ・リサイクルごみの「収集量」「全体に占める割合」

廃棄ごみ＝一般ごみ（可燃用プリペイド袋を含む。）

区分	計画	6年度実績	前年度実績	摘 要
体積 ^{m³}	829,774	866,778	847,932	計画比 4.5%増、前年度実績比 2.2%増
重量 t	125,960	128,613	127,417	計画比 2.1%増、前年度実績比 0.9%増
割合%	82.4	83.5	83.2	廃棄ごみ体積／総収集量体積

リサイクルごみ＝一般ごみ以外

区分	計画	6年度実績	前年度実績	摘 要
体積 ^{m³}	177,736	171,186	171,665	計画比 3.7%減、前年度実績比 0.3%減
重量 t	30,480	28,627	28,354	計画比 6.1%減、前年度実績比 1.0%増
割合%	17.6	16.5	16.8	リサイクルごみ体積／総収集量体積

(3) リサイクルごみの収集量 (体積m³)

ごみ種	計画	6 年度 実績	前年度 実績	摘 要
資源化ごみ	83, 380	81, 050	83, 395	計画比 2. 8%減、前年度実績比 2. 8%減
生ごみ	43, 030	39, 732	38, 941	計画比 7. 7%減、前年度実績比 2. 0%増
不燃用プリ袋	29, 751	28, 748	28, 316	計画比 3. 4%減、前年度実績比 1. 5%増
剪定枝	3, 155	3, 036	3, 521	計画比 3. 8%減、前年度実績比 13. 8%減
びん・缶・ペット	18, 420	18, 620	17, 492	計画比 1. 1%増、前年度実績比 6. 4%増
合 計	177, 736	171, 186	171, 665	

(4) 家庭用パソコンのリサイクル収集台数 (回収メーカー不在、自作パソコン等)

資源有効利用促進法により、家庭系パソコンは各メーカーが回収しているが、自作パソコン等は当公社で収集している。

収集品目	6 年度実績	前年度実績	対前年
パソコン本体等	3 3	2 7	6 台増
ディスプレイ等	3 4	3 5	1 台減
合 計	6 7	6 2	5 台増

■ 直近 5 年間の事業実績 (ごみ総収集量の推移)

区分	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	平均値
体積m ³	923, 288	950, 440	1, 006, 211	1, 019, 597	1, 037, 964	987, 500
重量 t	145, 086	146, 713	154, 089	155, 771	157, 240	151, 780

■ 契約件数

契約方法	6 年度実績	前年度実績	対前年
伝票収集	9, 9 6 1	9, 8 8 1	8 0 件増
プリペイド袋収集	2 4, 9 9 4	2 4, 7 6 7	2 2 7 件増
合 計	3 4, 9 5 5	3 4, 6 4 8	3 0 7 件増

5 重点項目の実施状況

(1) 事業系ごみ収集運搬事業の効率化と顧客サービスの向上

ア 総収集回数の削減に向けた取組

収集の際に把握した排出量と収集回数が見合っていない事業所に対し、適正な収集回数となるよう働きかけを行っている。また、新規プリペイド袋契約事業所に対しては、WEBや電話での収集受付を基本とし、定期収集の希望があった場合、1か月程度の収集実績を検証した上、一定量の排出があった場合に定期収集としている。

イ 生ごみリサイクルの分別推進

札幌飼料化リサイクルセンターの建て替えにより、処理能力が増強されたことから、生ごみリサイクル量の増量のため、排出事業者に対し生ごみの分別を積極的に促した。すでに令和5年度から分別推進に向けた取組を行っており、54事業所が新たに生ごみ分別を開始した。

また、当該施設の更新により、受入れ基準が緩和されたことから、これまで清掃工場に搬入していたプラスチック、ダンボール梱包等の食品廃棄物について、一部リサイクルを行ったほか、施設の日曜日運転が可能となったことから、日曜日の生ごみ収集を開始している。

(2) 施設の計画的な整備・保安全管理

令和6年度の計画的な施設保全整備として、駒岡資源選別センターの空調設備のチラーユニットの更新、中沼資源選別センターの管理用パソコンの更新を行った。

(3) リサイクルに関する調査研究

令和4年度から令和6年度まで「事業系紙おむつのリサイクルに関する調査」を実施した。また、令和6年度は「びん・缶・ペットボトル選別事業に関する調査」を実施した。

(4) 顧客や市民への積極的な情報発信と多様なニーズへの対応

ホームページに一般競争入札となる業務の告示や事業系ごみ収集運搬事業の排出事業者へのお知らせ、働く「職員の声」などの最新情報を掲載したり、各種イベントへ出展や協賛を行うことにより広く市民に対して情報発信を行った。

(5) 事務・事業の見直し及び経費の節減

ア 受付作業の軽減に向けた取組

WEBサポート機能の「プリペイド袋収集受付システム」の拡大を図るため、今年度も電話受注の多い855事業所及び新規事業所に対し、利用案内等を郵送した。この結果、令和7年3月の1か月の受注件数18,424件のうち66.4%の12,225件がインターネットからの申込みとなっており、受付作業の軽減が図られた。

イ WEBサポートサービス機能維持に向けた検討

インターネットを利用したWEBサポートサービスの維持とシステムの安定稼働に向けて、試験環境、冗長化等システムの補完機能の整備を行った。

ウ 業務管理システム新携帯端末の稼働

業務管理システムで使用する新携帯端末のプログラム開発が終了し、令和6年1月より順次、新携帯端末に移行しており令和6年6月に移行が完了した。

今後は、通信機能・カメラ機能を活用した業務の効率化について検討していく。

エ 駒岡資源選別センターでは、空調用チラーユニットの更新に併せ、デマンド制御機能を利用し効率的な出力となるスケジュール運転設定を行うことで、電気料金の経費削減を図った。

事業報告の附属明細書

令和6年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書に記載すべき「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しておりません。